

河川基金助成事業

「川は自然の宝箱」 ～わたしたちと多摩川～ 報告書

助成番号：2020 - 7212 - 011

東京都多摩市立連光寺小学校

校長 関口 寿也

2020 年度

| | | | | | | |
|---|--|--------------|----------------|--------------------------------------|---------|-------|
| 助成番号 | 助成事業名 | | | 学校名 | | |
| 2020-7212-011 | 川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～ | | | 東京都多摩市立連光寺小学校 | | |
| 校長名 | 関口 寿也 | 担当教諭名 | | 藤本珠美子、中島直文、羽澄ゆり子 | | |
| 過去の助成実績 | なし (あり) [助成番号：2019-7212-014 助成事業名：川は自然の宝箱～わたしたちと多摩川～] | | | | | |
| キーワード | ESD、環境教育、自然体験活動、カリキュラムマネジメント、ポートフォリオ評価 | | | | | |
| 対象児童生徒 | 高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (4, 5年61、69名) | | | | | |
| 対象河川名 | 多摩川・大栗川 | 活動場所の指定状況 | | なし 子どもの水辺 (水辺の楽校) | | |
| 年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ | | | | | | |
| <p>テーマ : 自分の思いをもってかかわりを持ち、課題を追究し、伝え合い、高め・深められる学習活動の工夫</p> <p>ねらい : 多摩川や地域の自然に関心をもって体験活動や問題解決学習を行うことを通して、課題追究の力を身につけると共に、地域の自然への親しみや愛着を感じながら、自分たちが自然とどのように関わり、行動することで持続可能な社会がつかれるのかを考え、実践する。</p> <p>評価の観点 : ア：環境や社会の仕組みを理解する。イ：学び方を身につける。ウ：課題をつかみ、考え、判断し解決する。エ：価値を見出し、思いや考えを伝える。オ：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる。カ：協力してよりよい社会を作ろうと行動する。</p> <p>活動時期 : 通年</p> | | | | | | |
| 活動形態 | 総合的な学習の時間 | 各教科学 (理科・社会) | 各教科学習 (国語・道徳) | 学校行事 | その他 () | 合計 |
| 上記の活動時間数 | 70 時間 | 10 時間 | 10 時間 | 時間 | 時間 | 90 時間 |
| 支援者等 (複数記入可) | | | | | | |
| 保護者 | 外部小学校 | 外部中学校 | 外部高校 | 外部大学 | 市民団体 | 専門家等 |
| 河川管理者 | 行政機関 (博物館、資料館) 等 | | 関係団体 (漁協、農協) 等 | | 企業 | その他 |
| 支援概要 | 体験活動時には保護者、多摩市水辺の楽校の方々に安全確保をお願いしている。魚類、水生生物、野鳥、植物、水質などの専門家には現場や事前事後に調査の方法や結果の解説をしていただいた。 | | | | | |
| 活動成果 | 発表形態 | | | 成果作品 | | |
| | 学級単位 | 学年単位 | 学校全体 | 調べ学習のまとめの作品制作。校内発表会でのプレゼン資料の制作。図工作品。 | | |
| 安全対策に関する課題 | | | | | | |
| <p>・コロナ禍での活動ということで、感染予防対策に気を使った。特に屋内でのまとめや話し合い活動、発表会などに関して通常通りとはいかなかった。・野外活動では熱中症対策が大きな課題となった。・台風 19 号と治水対策工事による河川環境の大幅な変化で活動場所の確保と安全管理が例年以上に求められた。</p> | | | | | | |
| 活動の成果と今後の課題・展開 | | | | | | |
| <p>成果：コロナや天候により体験活動が計画通りにいかなかったことが多かったが、事前の活動や事後のまとめを形にしてポートフォリオを意識的に残したことで、少ない体験活動を有効に活用することができた。このような状況下であったが、児童が仲間と協力しながら課題を解決する姿を多く引き出し、地域への愛着や地域の一員としての自覚を持つことができた。総合的な学習の時間を楽しいと感じ、児童自ら次の課題を見つけ意欲的に取り組む児童も多かった。</p> <p>課題：台風や治水工事に伴い多摩川の状況が変化している。前年と同じ活動を行なうことにこだわらずに、状況に応じた活動を計画し、様々な学習活動の事例を積み重ねていくことが、持続可能な多摩川学習につながる。質の高い体験活動を考える教員の力の育成とそれを支える地域の方々による多摩川の環境の維持が課題と言える。</p> | | | | | | |
| 活動内容と実施時期 (主な活動を2つのみ記入) | | | | | | |
| データベースに登録する活動分野 | 部門 | 大分類 | 中分類 | 小分類 | 実施時期 | |
| | 学校部門 | 教育活動 | 生物調査系 | 生き物と環境 | 4～10 | 月 |
| | | | 教育研究系 | 河川環境教育 | 4～3 | 月 |

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

| | | | | | |
|-----------|---|-----|------------|------|---------------|
| 1.助成事業名 | 川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～ | 学校名 | 多摩市立連光寺小学校 | 助成番号 | 2019-7212 011 |
| 2.単元名 | 川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～ | | | | |
| 3.目標 | 多摩川の自然に関心を持って体験活動や問題解決学習を行うことを通して、課題追究の力を身につけるとともに地域の自然への親しみや愛着を感じながら、自分たちがどのように持続可能な社会をつくるか考える、実践する。 | | | | |
| 4.実施学年 人数 | 4年生 61名 | | | | |
| 5.場所 | 主に 多摩川中流域 関戸橋～大栗川合流点付近 見学：御岳溪谷、羽村取水堰、大師河原干潟館と干潟、南多摩水再生センター | | | | |

6.単元構想(総時間数) 70時間(+20時間)

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|
|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|

| | | | |
|-------------|---|---|--|
| 4学年 単元目標 | <p>多摩川で「発見」や「はてな」をみつけよう(20)</p> <p>多摩川での様々な共通体験活動を通して、豊かな自然を肌で感じ、興味・関心を深める。問題解決学習の学び方や専門家の方々との関わり方をつかむ</p> | <p>多摩川博士になろう(30+)</p> <p>・多摩川に対する視野を広げる。・1学期の活動で見つけた「はてな」を課題として追究していく。調査計画をたて、仲間と協力して活動する。・調べたことやわかったことを仲間に伝えあい情報を共有化して考えを深め、さらに課題を追究していく。・探究活動の成果をまとめて自分なりの考えを発表する。</p> | <p>多摩川とわたしたち(20+)</p> <p>これまでの学習でつかんだことをもとに、これからの多摩川と自分や地域の関わり方を考え、行動・発信する。</p> |
|-------------|---|---|--|

| | | | | | | | | | | |
|--------|--|---|--|---|--|---|---|--|---|--|
| 主な学習活動 | <p>流れをたどってみよう(7)</p> <p>・多摩川の赤ちゃん探し。学校近くの湧水から地域の流れをたどり多摩川とつながることをたしかめる。 ・春の多摩川の観察をおこない、これからの学習計画を考える。</p> | <p>川の生き物観察 共通体験Ⅰ(5)</p> <p>・川原の観察、ガサガサ体験を行い、多摩川の生き物、環境の調べ方を教わり、発見、疑問を見つける。 ・ふりかえりで発見や疑問や考えをまとめ、気づきを共有して、次につなぐ。</p> | <p>川の生き物観察 共通体験Ⅱ(8)</p> <p>・水質、野鳥、植物の観察を行う。 ・川の調べ方を教わりながら、様々な生き物とであい、川のことを知る。 ・ふりかえりを行い、疑問や調べたいことの整理を行い、各自の課題を決定する。</p> | <p>社会科見学Ⅰ</p> <p>・多摩川の下流域、河口干潟を見学 ・南多摩水再生センター見学で自分たちの使った水のゆくえを考える。</p> | <p>課題別調査体験Ⅰ(9)</p> <p>・自分の課題を追究するための調査の計画を立てる。 ・課題毎にグループで調査を行う。 ・調査でわかったことをまとめ、仲間と情報を交換してあらたな課題を立てて次回の調査にむけて考える、準備する。</p> | <p>課題別調査体験Ⅱ(7)</p> <p>・これまでの学習でわかったことやさらに調べたいことを整理して、次の調査計画をたてる。 ・課題毎にグループで調査を行う。 ・調査でわかったことをまとめ、仲間と情報を共有し、考えを深める。</p> | <p>調べ学習・まとめの活動(14)</p> <p>・これまでの学習でわかったことやさらに調べたいことを整理し、図書資料、インターネット資料、専門家に聞くなどしてさらに追究する。 ・まとめの作品づくりをおこなう。</p> | <p>発表会を開くⅠ(6)</p> <p>・まとめ作品をもとにクラス、学年での発表を行なう。 ・自分の考えを発表仕合い、友達の意見を聞くことで考えを広げたり、深めたりする</p> | <p>発表会を開く(4)</p> <p>・生活科・総合的な時間の学習発表会として、他学年の児童、地域、保護者に向けて発表する。 ・発表会をふりかえり1年間のまとめと考えをまとめる。</p> | <p>多摩川みらい会議を開く(10)</p> <p>・これからの多摩川がどうなってほしいか、自分たちはどのようにかかわりたいかはなしあい、できることやしたいことを決める。 ・やりたいことを実行するための計画作りと準備。 ・実行に移す。</p> |
| | <p>夏休みの宿題 「川新聞」作り</p> | <p>東京都水道局による 水道キャラバン受講</p> | <p>社会科Ⅱ 多摩川の上流域として、御岳溪谷を見学。 また、羽村取水堰を見学して多摩川の上水としての利用や治水の歴史に触れる。</p> | <p>社会科：「風水害から人々を守る」台風19号の時の多摩川の氾濫の様子や過去の水害から学び、多摩川の未来についてさらに考えを深める。</p> | | | | | | |

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|---|
| 評価項目 | <p>ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力</p> <p>①多摩川の自然に関心を持ち、自分から進んで体験や観察・調査の活動に取り組むことができる。</p> <p>イ：課題を見つめ解決する力</p> <p>①体験や調査を通して気づきや疑問を明確にして、あらたな課題に気付くことができる。</p> <p>ウ：他者と協力し、活動する力</p> <p>①体験や調査を通して気づきや疑問を明確にして、あらたな課題に気付くことができる。</p> | <p>ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力</p> <p>①多摩川の自然に関心を持ち、自分から進んで体験や観察・調査の活動に取り組むことができる。</p> <p>イ：課題を見つめ解決する力</p> <p>①体験や調査を通して気づきや疑問を明確にしたあらたな課題に気付くことができる。</p> <p>ウ：他者と協力し、活動する力</p> <p>①自分なりの考えをもち、同じグループの仲間と話し合い協力して活動することができる。</p> | <p>ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力</p> <p>②多摩川の自然や人間の関わりに対して、意欲的に課題追究することができる。</p> <p>イ：課題を見つめ解決する力</p> <p>①体験や調査を通して気づきや疑問を明確にしたあらたな課題に気付くことができる。</p> <p>②簡単な計画を立て、見通しを持ちながら追究することができる。</p> <p>③観察や調査をしたり、資料を調べたりして、必要な情報を収集することができる。</p> <p>ウ：他者と協力し、活動する力</p> <p>①自分なりの考えをもち、同じグループの仲間と話し合い協力して活動することができる。</p> | <p>イ：課題を見つめ解決する力</p> <p>②簡単な計画を立て、見通しを持ちながら追究することができる。</p> <p>③観察や調査をしたり、資料を調べたりして、必要な情報を収集することができる。</p> <p>ウ：他者と協力し、活動する力</p> <p>②活動を振り返り、自分や友達の良さに気付くことができる。</p> <p>エ：自分の思いや考えを伝える力</p> <p>①相手にわかるように表現方法を工夫し、調べたことや自分の考えを伝えることができる。</p> | <p>ア：人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力</p> <p>・多摩川の自然や人間の関わりに対して、意欲的に課題追究することができる。</p> <p>イ：課題を見つめ解決する力</p> <p>・体験や調査を通して気づきや疑問を明確にしたあらたな課題に気付くことができる。・観察や調査をしたり、資料を調べたりして、必要な情報を収集することができる。</p> <p>ウ：他者と協力し、活動する力</p> <p>・自分なりの考えをもち、同じグループの仲間と話し合い協力して活動することができる。・地域の専門家の方々積極的に関わりながら課題追究を進めることができる。</p> <p>エ：自分の思いや考えを伝える力</p> <p>・相手にわかるように表現方法を工夫し、調べたことや自分の考えを伝えることができる。・活動を通して考えたことや調べたことを伝え合い、自分の考えを深めることができる。③多摩川の生態系や多様性に気づき、自分と自然の関わりを考えることができる</p> |
|------|--|--|--|--|---|

アドバンス 活動報告書

| | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|---|--|--|---|--|---|---|---|---|---|---|
| 1.助成事業名 | 川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～ | 学校名 | 多摩市立連光寺小学校 | 助成番号 | 2020-7212- 011 | | | | | | | |
| 2.単元名 | 連光寺 SATOYAMA (里川・里山) プロジェクト | | | | | | | | | | | |
| 3.目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・4年時の多摩川での学習をもとに、地域の雑木林や谷戸田とそこを流れる水路を含む里山で仲間や専門家、地域の方々や体験活動を通して、課題探求の力をつけると共に、自然と共生する「SATOYAMA」の価値や地域の良さに気づき、これからの自分が地域の自然とどのように関わり行動するか考え、行動していく。 ・理科、社会科の関連単元において多摩川を教材として用い、4年次の多摩川の学習成果を活かして、より実感のある学びとする。 | | | | | | | | | | | |
| 4.実施学年 人数 | 5年生 69名 | | | | | | | | | | | |
| 5.場所 | 多摩川中流域、多摩市連光寺地域、森林総合研究所連光寺実験林、都立桜ヶ丘公園、大谷戸公園など | | | | | | | | | | | |
| 6.単元構想 (総時間数) | 70時間 | | | | | | | | | | | |
| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| 5学年・単元目標 | 森林調査隊 (23時間) | | | SATOYAMA 博士になろう(25+時間) | | | | | SATOYAMA から未来を考えよう (22+時間) | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の森林の様子を探ったり、保全活動をしている方々と交流したりして、愛着を持ちながら自分の課題をさぐる。 ・4年次の多摩川での学習経験から、雑木林が育む「水」について気づくことをねらいながら活動する。 | | | 1学期の里山での共通体験から、自分が深く知りたいテーマを設定しそれを追求していく。谷戸田での農作業体験や観察、地域の人々との交流を通して地域の自然の価値に気づき、これからの自分と自然とのかかわりを考える。特に谷戸田は水辺環境として良好な自然が残されている場所であることから、4年生の河川学習を元にさらに学習を深めたい | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・調査したり、資料で調べたりしたことをもとにまとめの作品を作成し、それをもとに、保護者、地域の方々に発信し交流する。交流を通してお互いの共通点や相違点を見出して考えを深める。 ・1年間を振り返り、地域の里山の価値に気づき、人と自然の共生について考え、自分なりの意見を持つ。 | | | |
| 主な学習活動 | <図工> (四季) 自然素材で作品をつくる。 | | | <社会> 単元名：わたしたちの生活と食料生産 ・これからの食料生産とわたしたち ・食料生産と環境 | | <理科> 単元名：天気と情報 (2) 台風と気候の変化 単元名：流れる水の働き | | | <社会> 単元名：わたしたちの生活と環境 ・わたしたちの生活と森林 ・環境を守るわたしたち ・自然災害を防ぐ | | | |
| | ・森へようこそ (3時間) 近くの竹林で、保全の活動の一環としてのタケノコ掘り体験。 ・森林ウォークラリー (6時間) 高尾森林科学園に行き、森のみかたや調査の仕方を学ぶ。川の上流の様子を観察する。(浅川の上流部) | 森を知る探究活動Ⅰ (8時間) ・探究課題を決める。 ・類似課題のグループを作り調査活動の計画を立てる。 ・計画を専門家や地域の方に見てもらい計画を修正。 ・計画を元に探究活動。 ・わかったこと、疑問に思ったことを交流し、考 | 谷戸田での活動 (6時間) ・田起こし作業を通して谷戸の自然を体感する。 ・田植え作業を通じ田んぼにとっての水の重要性を感じる。 ・稲の生長と田んぼの生き物観察 良好な水辺環境としての谷戸田を感じる。 | 集団宿泊 ハケ岳で林業体験として間伐作業を行う。 | 理科 ・天気と情報：台風による河川の増水とその被害などについて、多摩川の増水時の様子を観察する。 | 森を知るⅡ・Ⅲ (19時間) 各自が課題を設定し、追求する活動。 ・各自の課題に沿った活動を行う。 ・課題を追求するために課題別のいくつかのグループにわけ活動。 ・課題に対応できる、専門家の方をできる範囲で支援してもらえようにし | 谷戸田(6時間) ・田んぼの観察 ・稲刈り ・脱穀 ・籾すり、精米 ・収穫祭・(調理、試食) | 理科 ・流れる水の働き：4年次の多摩川での学習を振り返り石や流れの様子を考える。 | まとめの活動(14時間) ・各自の課題についてこれまでの活動の記録、本、インターネットなどを使ってまとめ、作品をつくる。 ・発表会を行う。 | 社会科 ・私たちの生活と森林：多摩川源流の水涵養林について学ぶ。 ・環境をまもる：様々な環境を守る活動を学ぶ。 ・自然災害：自然と人間の生活との間の問題を考える。多摩川の洪水ハザードマップなどを用い身近な問題として防災をかんがえる。 | まとめ・発表(6時間) ・さらに全体でまとめを行い、地域の自然についての考えを深める。 ・地域の環境に関する提言書を作成し、実行が可能なものについては行動につなげていきたい。 | |
| 評価項目 | ア 人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる力 ① 仲間と共同し、主体的に雑木林体験や谷戸田での農作業や観察を行う。 イ 課題を見つめ、判断して解決する力 ① 森林ウォークラリー体験や谷戸田での活動を通して、自分のテーマをもち、計画を立てて調べる。 | | | ア 人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる力 ① 里山で活動する地域の人との交流活動を積極的に行う。 イ 課題を見つめ、解決する力 ① 森林ウォークラリー体験や谷戸田での活動を通して、自分のテーマをもち、計画を立てて調べる。 ウ 他者と協力し、活動する力 ① 仲間と協力して作業を行ったり、話し合いを通して考えを深めたりする。 | | | | | ア 人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる力 ① 里山で活動する地域の人との交流活動を積極的に行う。 イ 課題を見つめ、解決する力 ① 調査活動、情報共有を通して、里山に対して自分たちにできることを考える。 ウ 他者と協力し、活動する力 ① 仲間と協力して作業を行ったり、話し合いを通して考えを深めたりする。 ② 友達との伝え合いを通して自分の考えや友達の考えの良さに気づく。 エ 自分の思いや考えを伝える力 ① 活動の様子や自分たちの考えを整理・分析してまとめ、仲間や地域の人に分かりやすく伝える。 ② Web 交流で連光寺里山の良さを自分の言葉で表現する。 | | | |

アドバンス 活動報告書

| 1.助成事名 | | 川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～ | | | | | | | 学校名 | 多摩市立 連光寺小学校 | | | 助成番号 | 2020-7212 011 | | | |
|-------------|--|---------------------|---|--|---|---|----|---|--|---|---|---|------|--|--|---|--|
| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | | | | | |
| 4 学 年 | 多摩川で「発見」や「はてな」をみつけよう (20) | | | 多摩川博士になろう (30) | | | | | 多摩川とわたしたち (20) | | | | | | | | |
| | 多摩川での様々な共通体験活動を通して、豊かな自然を肌で感じ、興味・関心を深める | | | 1学期の活動で見つけた「はてな」を課題として追究していく。調査計画をたて、仲間と協力して活動する。調べたことやわかったことを仲間に伝えあい情報を共有化して考えを深め、さらに課題を追究していく。探究活動の成果をまとめ自分なりの考えを発表する。 | | | | | これまでの学習でつかんだことをもとに、これからの多摩川と自分や地域の関わり方を考え、行動・発信する。 | | | | | | | | |
| | <p>流れをたどってみよう</p> <p>6月【出会う】 ・オリエンテーション ・「多摩川の赤ちゃん探し」 地域と多摩川のつながりをさぐる。</p>  | | | <p>6月【共通体験Ⅰ】 ・川たどりで着いたのが多摩川だった。そこで、石、植物の調査体験。</p> | | <p>7月【共通体験Ⅱ】 「川原の観察」「ガサガサ体験」体験</p> | | <p>9月【テーマ別調査】 ・テーマを決める ・現地調査Ⅰ ・荒天続きのため、ゲストティーチャーによるテーマ別レクチャー 9月【調べ学習】 ・図書資料等を活用し、疑問に思ったことを調べる。 ・2回目の現地調査の準備</p> | | <p>10月【テーマ別調査】 ・テーマ別現地調査 ・現地調査のふりかえりとまとめ 10月【調べ学習】 ・図書資料等を活用したり、専門家の方に聞いたりを、疑問に思ったことを調べる。 ・まとめの計画を立てる。</p> | | <p>11月～12月【まとめ作品作り】 12月【報告会】 ・調べたことを作品にまとめる。 ・学年内で発表会</p> | | <p>「生活科・総合的な学習の時間発表会」 ・これまでの学習をもとに自分の考えをまとめ、他学年にグループごとにポスターセッション形式で発表。</p>  | | <p>「多摩川未来会議」 これからの多摩川の姿を考え自分たちにできることを考えて、実践する。 ・ゴミ拾い、ポスターによる啓発が提案された。特にプラスチックゴミについて、調べた児童が見受けられた。 実際にゴミ拾いに久しぶりに多摩川を訪れた。</p>  | |
| |   | | |  | |  | |  | | <p>11月 理科 「雨水のゆくえ」 理科の新単元 春の川たどりの経験を活かして実験を進める。</p>  | |  | | <p>1月～ 社会科 「自然災害から人々を守る活動」 多摩市の防災について学習 特に台風19号多摩川の洪水を教材にして。水害の歴史、ハザードマップ、市の防災安全課の方から話を聞く。</p>  | | | |

8.成果と課題

成果

- ①ポートフォリオについて：・教員がポートフォリオ評価について意識することによって、指導のねらいが明確になった。・これまでの活動を振り返る時間をもつことで、次の活動が深まった。・作品作りも、調べ学習をまとめたものだけでなく、これまでの活動全体からまとめたものや、多摩川の魅力や自分のつかんだことを新たに再構成するようなものがみられた。・今年度は体験活動がコロナにより制約を受けたが、数少かつた活動をポートフォリオによって有効に活かすことができた。
- ②年間の指導について：・学習の進行を児童中心にしたり、次の活動についてどう考えるか児童に問いかけ続けたりしたことにより、総合的な学習の時間は自分たちで考え進めるという意識を持たせることができた。
・総合的な学習の発表会の場をもつことで、体験をまとめるだけでなく、多摩川未来会議（多摩川の未来を考えるために、自分たちにできることを考え実行する）をおこない、海洋プラスチックの問題にまで触れることができ、SDGsにつなげることができた。そのことは、現代のリアルな課題に向き合い自分たちのこととして考えることにつながった。
- ③6つの能力・態度：・ポートフォリオを活用することを意識した結果、児童が学習をふりかえり、これまでの学習を通して考える態度が身についた。考えを表現する力を伸ばす要因になっている。

課題

- ①年度当初の4月5月がコロナによる一斉休校だったため、年間計画が大幅に変更を余儀なくされた。さらに感染予防の見地から予定していた社会科見学を実施することができなかつたため、多摩川を上流から下流までのつながりとしてとらえることが希薄となってしまった。全体的に体験不足の感のある今年度は子どもたちの作品にあと一步深まりがないと感じられた。
- ②・ポートフォリオ評価：・記録を幅広く活用するためには、経験を積むことが必要。・学習展開のどの場面で行うと効果的なのか意識し、計画したり実践を行ったりする。・日常的に行うことができるようにするためにも、ポートフォリオ評価を行うねらいを共有し、指導者間の連携をつくることが大切。③年間の指導について：・活動場所や方法について検討が必要。・台風や工事に伴い、多摩川の状況が変化している。前年と同じ活動を行うことを繰り返すのではなく、状況に応じた活動を計画することで、様々な学習活動の事例を積み重ねていく事が、持続可能な多摩川学習につながると考える。④6つの能力・態度：・問題解決学習を繰り返すことで、どの力も伸びてきたが、社会の課題を自分のこととして考え行動する点においては、まだ十分といえない日常生活での様子がみられる。⑤今後の1人1台のタブレット配布の状況でインターネット情報の活用能力を養っていく必要性が課題と感じられた。・実体験と資料の情報をどのように合わせて活用するかも課題と感じた。

アドバンス 活動報告書

| | | | | | |
|---------|---------------------|-----|------------|------|----------------|
| 1.助成事業名 | 川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～ | 学校名 | 多摩市立連光寺小学校 | 助成番号 | 2020-7212 -011 |
|---------|---------------------|-----|------------|------|----------------|

7.実際にいった単元構成

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | | | | | | | | | | |
|-------------|--|---|--|---|---|---|--|----|---|---|---|---|---|--|---|--|---|--|---|--|---|--|
| | 連光寺 SATOYAMA 調査隊 | | | | | 連光寺 SATOYAMA 博士になろう | | | | | SATOYAMA から未来を考えよう | | | | | | | | | | | |
| 5 学 年 | <p>体験活動を通して里山に対して関心を持つ。里山について自分のイメージを持ち、追求していく課題を意識する。 4年次の多摩川での学習経験から、雑木林が育む「水」について気づくことをねらいながら活動する。</p> | | | | | <p>1学期の里山での共通体験から、自分が深く知りたいテーマを設定しそれを追求していく。谷戸田での農作業体験や観察、地域の人々との交流を通して地域の自然の価値に気づき、これからの自分と自然とのかかわりを考える。特に谷戸田は水辺環境として良好な自然が残されている場所であることから、4年生の河川学習を元にさらに学習を深めた。</p> | | | | | <p>・調査したり、資料で調べたりしたことをもとにまとめの作品を作成し、それをもとに、保護者、地域の方々、さらには他校にも発信し交流する。 交流を通してお互いの共通点や相違点を見出して考えを深める。 ・1年間を振り返り、地域の里山の価値に気づき、人と自然の共生について考え、自分なりの意見を持つ。</p> | | | | | | | | | | | |
| | <p>森へ行ってみよう 「森の中の水探し」 森のみかたや調査の仕方を学ぶ。 川の上流の様子を観察する。 (浅川の上流部)</p>  | | <p>谷戸田での活動 良好な水辺環境としての谷戸田を感じる。</p>  | | <p>理科 ・天気と情報：台風による河川の増水とその被害などについて、多摩川の増水時の様子を観察する。</p>  | | <p>理科 ・流れる水の働き：4年次の多摩川での学習を振り返り石や流れの様子を考える。 ・流れを作って水の働きを探る活動。</p>  | | <p>谷戸田 (7時間) ・田んぼの観察 ・稲刈り ・田起し体験</p>  | | <p>社会 食料生産とわたしたち ・食料生産と環境 ・地域の自然と谷戸田の役割、環境保全活動を行っている人々との出会い。</p>  | | <p>まとめの活動(12時間) ・各自の課題についてこれまでの活動の記録、本、インターネットなどを使ってまとめ、作品をつくる。 ・学年内で発表会を行った</p>  | | <p>竹林の整備活動 ・田んぼの観察 ・稲刈り ・田起し体験</p>  | | <p>まとめ・発表(6時間) ・一年間の里山での活動を振り返り、さらに全体でまとめを行い、地域の自然についての考えを深める。 「生活科・総合的な学習の時間発表会」 ・これまでの学習をもとに自分の考えをまとめ、仲間や地域の方々に発表する。</p>  | | <p>社会科 ・私たちの生活と森林：多摩川源流の水源涵養林について学ぶ。 ・環境をまもる：様々な環境を守る活動を学ぶ。 ・自然災害：自然と人間の生活との間の問題を考える。多摩川の洪水ハザードマップなどを身近な問題として防災をかんがえる。</p>  | | <p>森を感じる(図工) 桜ヶ丘公園の竹林整備で除伐した竹を使い野焼き(焼き物づくり)を行なう。</p>  | |

8.成果と課題

成果：○調査したことや教えてもらったことなどを分かりやすく仲間に伝えることができるようになった。○今年も森の中の土をテーマに取り組んだ児童グループがいたこと、さらにはわき水や谷戸田の水質調査を行なったグループもいたことは、森の中の土と水と川に大きな関係があることに気づいていく思考の過程に4年次の学習が生きていたことを実感した。○身に付けさせたい力を意識しながら単元を計画したり、入れ替えたりしたことで、思考する力や探究する力、里山に対する基本的な知識が身に付いた。○理科・社会の単元で多摩川を教材として実感を伴う授業を行うことができた。○「連光寺 SATOYAMA プロジェクト」の全体を通して、環境を考えるための学習活動として展開することができた。また、他教科や行事との結びつきが「環境を守る」という観点で精選された。○今年度は昨年の多摩川で培われた力が元となって、コロナのため少ない体験活動だったにもかかわらず、地域の自然への愛着が高まり、普段当たり前だと思っていた地域の環境の良さに気づき、「この自然を未来にも残したい」「自然をまもっていききたい」と言葉に表し意識するようになった。

課題：
●「〇〇したい」という思いはもっているが、それを解決するための手立てや計画を立てることが苦手。今年度はそれを改善するだけの体験活動ができなかったことが残念。●理科・社会との関連で教科関連事項を整理して、より教材化を進めたい。●探究活動によって深めた里山に対する愛着を日常生活の事柄につなげていくこと。課題を自分事にしていく必要がある。●児童が主体的に取り組めるフィールド環境の確保、プログラムの構築をよりいっそう進めていくようにしたい。●今年度は春の時期が一斉休校だったため、スタートが遅くなったり、外部の支援者等との接触が制限されたりと、例年通りにいかない事が多かった。そのため、ストーリー性のあるプログラムが展開しづらかった。●また、まとめの時期にも密を避けるための配慮が必要と言うことで話し合い活動や協働作業が難しかったため、学習のまとめが十分に行えなかった。次年度のプログラムにつなげていく工夫が必要。

| 助成番号 | 助成事業名 | 学校名・学校長氏名 |
|---------------|---------------------|-------------------------|
| 2020-7212-011 | 川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～ | 多摩市立連光寺小学校 学校長 関口 寿也 |



フィールド：水車公園

日付：2020.6.5

コメント：川たどり

学校近くの公園のわき水をたどっていくと

水車公園につながっていた。ここには昔水車があったことからこの公園の名前がついたそうだ。井戸も残っている。

一斉休校、分散登校明けの数時間、子どもたちの表情がいきいきしていた。



フィールド：多摩川、大栗川の合流点

日付：2020.6.24

コメント：川たどり2

公園のわき水をたどっていった先は大栗川になり最後に多摩川に合流した。たどり着いた多摩川で専門家の方から河原の植物、鳥、石の見方についてお話を聞いたり散策をしたりして、多摩川との出会いを楽しんだ。



フィールド：大栗川、多摩川合流点

日付：2020.7.22

コメント：共通体験で川に入りガサガサをやる

初めて多摩川に入る児童も多く、始めはおそるおそるだった子どもも最後は川流れまで体験することができました。熱中症対策と着替え用に設営したテントが役立ちました。ただし、全員が使うとなると狭くて密になるので、増設しないと感じました。

注) 写真は5～6枚程度(枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

| 助成番号 | 助成事業名 | 学校名・学校長氏名 |
|---------------|---------------------|-------------------------|
| 2020-7212-011 | 川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～ | 多摩市立連光寺小学校 学校長 関口 寿也 |

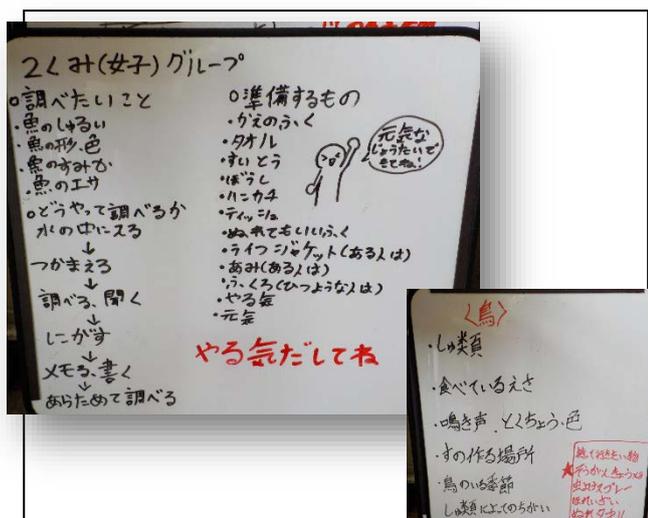


フィールド：大栗川

日付：2020.9.11,18

コメント：調査探究活動

個人個人のテーマを決めて探究活動を行ないました。主なテーマは、多摩川・大栗川の魚、陸生昆虫、野鳥、植物、石、水質、流れ、歴史等々。専門家の方のアドバイスを受けながら、自分なりの方法や同じテーマの友だちと協働してテーマを追究していきます。



フィールド：学校

日付：2020.9

コメント：調査の準備

探究活動が充実するかどうかの鍵は、まずはテーマを決めるとき。そして、調査に行く前の準備、そして調査後のまとめです。調査当日はただその計画にのっとって実行あるのみです。特に、1回目の調査のあとその結果から次の調査で足りなかったところを補う調査を2回目に計画できるかどうか重要です。

コロナのためなかなか話し合い活動を行えなかったのですが、マスクをしてソーシャルディスタンスをとって、換気のよい部屋で決行。本校の活動にはこのホワイトボードミーティングが欠かせません。

「元気な状態できてね」という言葉が今年を象徴しています。



フィールド：学校

日付：2021.2.26

コメント：学習発表会

例年のように地域の方やお世話になった専門家の方、保護者を招いての大規模な発表会はできませんでした。

学年、クラス毎の分散形式で発表会週間として開催し、一つ下の学年に向けての発表となりました。

それでも、発表に向けての取り組みは、1年間の活動を整理して次の思考の段階に向かうために必要なステップです。また、下の学年の子どもにとっても次年度の目標もてる大切な時間です。

| 助成番号 | 助成事業名 | 学校名・学校長氏名 |
|---------------|-------|-----------|
| 2020-7212-011 | | |



フィールド：学校
 日付：2021.1.
 コメント：発表会の準備

発表会の準備としてグループ討議。
 話題はそれぞれが調べたテーマがどのようなつながりをもっているかを考えた。ここでもホワイトボードを使って考えを整理している。



フィールド：多摩川、大栗川
 日付：2021.3.22
 コメント：多摩川にわたしたちができること

もうすぐ4年生も終わるという時期に最後の多摩川学習。
 みんなで相談して、わたしたちにできることとしてゴミ拾いとポスターによる呼びかけを行なうことに。



フィールド：桜ヶ丘公園
 日付：2020.6.2
 コメント：森と出会う
 一斉休校が明けてまずはみんなと森に出かけました。
 いきなれている桜ヶ丘公園の森ですが、改めて見てみると新しい発見がたくさんありました。
 森に入ると気持ちがよいということも大切な発見です。

注) 写真は5～6枚程度 (枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

| 助成番号 | 助成事業名 | 学校名・学校長氏名 |
|---------------|---------------------|-------------------------|
| 2020-7212-011 | 川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～ | 多摩市立連光寺小学校 学校長 関口 寿也 |



フィールド：桜ヶ丘公園のわき水

日付：2020.10.30

コメント：探究活動 森の中の水

森の中の水の水質は？4年生の時の水質調査の方法を使って調査をします。森のわき水の周辺はオレンジ色になっているところが多いのですが、この正体は何だろう？



フィールド：桜ヶ丘公園

日付：2020.10.30

コメント：森の中の土

森の中の土の秘密。

校庭の土と森の土はどこが違うのだろう。

土の中の生き物は？

降った雨のしみこみ方は？



フィールド：桜ヶ丘公園の谷戸田

日付：2020.9.17

コメント：谷戸田の活動

今年はコロナによる一斉休校だったため春の田植えができずイネを育てることは経験できませんでした。

秋になって稲刈りと同時に田起こしの活動を行ないました。田んぼの中の生き物にも興味が向かいました。

| 助成番号 | 助成事業名 | 学校名・学校長氏名 |
|---------------|---------------------|-------------------------|
| 2020-7212-011 | 川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～ | 多摩市立連光寺小学校 学校長 関口 寿也 |



フィールド：学校

日付：2020.10.23

コメント：まとめ

現地調査の後はまとめの作業。

同じテーマの友だちと相談したり、これまでの記録ファイルを見ながらまとめたり。専門家の方にアドバイスも受けながら進めます。



フィールド：

日付：

コメント：



フィールド：

日付：

コメント：

注) 写真は5～6枚程度 (枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

[学校部門]

[実施箇所位置図]

| 助成番号 | 助成事業名 | 学校名・学校長氏名 |
|---------------|---------------------|-------------------------|
| 2020-7212-011 | 川は自然の宝箱 ～わたしたちと多摩川～ | 多摩市立連光寺小学校 学校長 関口 寿也 |

主な実施箇所 多摩川中流 関戸橋上・下流 及び 大栗川合流点付近

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
 (縮尺は 1/50 万～1/100 万程度)

助成事業の主な実施箇所



 : 枠線の中が活動場所